

## 一般社団法人 防災学術連携体

## 2025 年度総会・議事次第

日時：2025 年 7 月 30 日（水）13 時 00 分～15 時 00 分（意見交換会を含む）

場所：オンライン開催（Zoom による）、防災学術連携体事務局（A-Forum）

## ■議事次第

1. 開会の辞
2. 議長選出
3. 議事

第 1 号議案：2024 年度貸借対照表及び正味財産増減計算書について

第 2 号議案：2025 年度事業計画について

第 3 号議案：2025 年度収支予算について

4. その他

- ・第 7 回「防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」の案内
- ・防災推進国民大会（ぼうさいこくたい 2025）参加計画説明
- ・WEB 研究会について（報告・案内）
- ・2025 年市民向けメッセージの発信について
- ・防災連携委員の名簿管理と更新について、その他

## ■配付資料

資料 1-1 2024 年度事業報告（報告事項）

資料 1-2 第 1 号議案-1 2024 年度貸借対照表

資料 1-3 第 1 号議案-2 2024 年度正味財産増減計算書

資料 1-4 監査報告書

資料 2 第 2 号議案 2025 年度事業計画案

資料 3 第 3 号議案 2025 年度収支予算案

資料 4 （一社）防災学術連携体 幹事会名簿 2025 年 7 月

資料 5 第 7 回「防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」チラシ

資料 6 ぼうさいこくたい 2025 シンポジウム企画（チラシ）

資料 7 WEB 研究会の記録

資料 8 2025 年市民へのメッセージ

総会（1 時間程度）終了後に、参加者で意見交換会を開催する（1 時間程度）

意見交換会のテーマ（案）：今後の活動内容・テーマ、防災に関わる情報交換など

# 一般社団法人 防災学術連携体

## 2024 年度 事業報告

自 2024 年 7 月 1 日  
至 2025 年 6 月 30 日

防災学術連携体は、2024 年度の事業計画に沿った活動を積極的に進めた。

2024 年 1 月に能登半島で発生した大地震や 9 月に発生した豪雨による災害に対して、会員間や社会への情報展開を図るための報告会やシンポジウムなどを開催してきた。また、1995 年の阪神・淡路大震災発災から 30 年を振り返り今後の科学技術のあり方を考えるシンポジウム、防災庁の設置に向けて学術界からの提案をするシンポジウムなども開催した。さらに、近年の地球温暖化に起因する災害を低減するための市民向けメッセージ発信も行った。

ここでは、2024 年度に実施した事業について、(一社) 防災学術連携体定款第 4 条 (事業) の各事項に沿って、以下にその内容を報告する。

### (1) シンポジウムの開催等の防災に関する普及活動

#### 1) 災害調査報告会の開催

「令和 6 年能登半島地震・7 ヶ月報告会」(主催：防災学術連携体 (63 学協会))

日時：2024 年 7 月 30 日 (火) 13 時～17 時

会場：Zoom ウェビナーによるオンライン開催+YouTube 配信

参加者：Zoom Webinar：553 名、YouTube 視聴：2940 回 (アクセス回数)

#### 2) 第 19 回防災学術連携シンポジウムの開催

「防災推進国民大会 2024」(主催：内閣府、防災推進協議会、防災推進国民会議) に参加し、防災・減災に関連するシンポジウムを開催した。

主催：日本学術会議 防災減災学術連携委員会・防災学術連携体 (63 学協会)

日時：2024 年 10 月 19 日 (土) 16 時 30 分～18 時

会場：Zoom ウェビナーによるオンライン開催

テーマ：「土地を知り、土砂災害・地盤災害に備える」

参加者：467 名。

#### 3) 防災学術連携体シンポジウムの開催-1

阪神・淡路大震災発災から 30 年の年を迎え、この大震災を振り返り、社会と科学の新たな関係を築くための課題を考えるシンポジウムを開催した。

日時：2025 年 1 月 7 日 (火) 10 時 00 分～18 時 30 分

会場：Zoom ウェビナーによるオンライン開催+Youtube 配信

テーマ：「阪神・淡路大震災 30 年、社会と科学の新たな関係」

参加者：Zoom Webinar：495 名、YouTube 視聴：3350 回 (アクセス回数)

#### 4) 防災学術連携体シンポジウムの開催-2

防災庁が設置される方向となっている中で、防災庁にとって重要なことは何か、特に

発災時の応急対応力強化のために何を準備しておくべきか、学术界からどのような貢献ができるかを考えるシンポジウムを開催した。

日時：2025年4月30日（水）11時30分～18時00分

会場：Zoom ウェビナーによるオンライン開催+Youtube 配信

テーマ：「防災庁への期待－災害応急対応力をどう強化するか」

参加者：Zoom Webinar：635名、YouTube 視聴：2557回（アクセス回数）

5) 第20回防災学術連携シンポジウムの開催企画の立案

防災推進国民大会2025（主催：内閣府、防災推進協議会、防災推進国民会議）にて、防災・減災に関係するシンポジウムを開催する計画を立て、採択された。テーマは「複合災害に立ち向かう防災の知恵——新潟と能登の経験から」。

日時：2025年9月6日（土）、あるいは9月7日（日）

会場：Zoom ウェビナーによるオンライン開催+YouTube 配信

6) 速報会「2024年夏（秋）の気象災害・要因と対策」の開催

日時：2024年9月23日（月）14時30分～16時30分

会場：Zoom ウェビナーによるオンライン開催+Youtube 配信

参加者：Zoom Webinar：301名、YouTube 視聴：611回（アクセス回数）

7) 市民への防災に関わるメッセージの発信

以下の市民向けメッセージを、報道関係者に対して発表し、気象災害への備えを市民に向けて呼びかけた。同時に一般の方々にも直接発信した。

2025年6月25日（水）：「2025年夏秋の気象災害に備えましょう」

Zoom ウェビナーによるメッセージ発表には報道関係者17名が参加、YouTube 視聴：約300名

8) 防災に関わる科学に関する情報発信

防災学術連携体のシンポジウム等における講演の動画について、広く閲覧されるように、講演者の協力により YouTube で公開した。

(2) 各学会の取組み等を紹介する防災関連の学術総合ポータルサイトの運営

防災学術連携体ウェブサイトについては、防災関連の学術総合ポータルサイトとして利用されることを目的として、ホームページには参加学協会からのお知らせ、行事案内を集約、随時更新した。また、ホームページ上の各サイト「概要と参加学協会」、「近年の自然災害に関する情報」、「学術フォーラム、公開シンポジウム」、「Web 研究会」、「講演動画 (YouTube)」、「防災科学の基礎講座 (YouTube)」、「声明・報告等」、「Activities Introduction」、「各学協会の防災関連委員会紹介」、「常時の交流・連携と災害時の緊急連絡網」、「学協会出版物・メディア掲載情報」、「国内外のお知らせ」、「国際協力・学協会連携」、「防災推進国民会議、日本学術会議（防災関連）」、「賛助会員」、「Link」、「防災連携委員のページ」においても、随時更新した。

(3) 学協会等の連絡網の構築及び緊急事態における必要な活動

常時は、学協会間の連絡を緊密にするとともに、交流を促進するための手段として、災

害などの緊急時には緊急連絡網として機能させることを目的として、防災連携委員、各学協会の事務局の名簿の更新を継続した。

またホームページに「宮崎県日向灘を震源とする地震」、「南海トラフ地震臨時情報」の特設ページを設け、災害情報と政府からの発信情報の一般への展開・情報共有を図った。

#### (4) 政府・自治体・関係機関等との交流の促進

2024年8月22日に、「第6回 防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」を「令和6年能登半島地震災害における課題と教訓」をテーマとして、オンライン（Zoom）にて開催した。本連絡会は、防災に関する日本学術会議、府省庁との平常時の連絡の場として開催しているもので、日本学術会議防災減災学術連携委員会、内閣府防災担当をはじめ府省庁の防災関係者が出席し、防災学術連携体委員の学協会・学識会員と情報・意見交換を行った。また2025年8月19日に、「第7回 防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」を開催すべく、準備を進めた。

内閣府防災担当が事務局を務める防災推進国民会議に委員として参画するとともに、防災推進国民大会2024のセッションとして、シンポジウム「土地を知り、土砂災害・地盤災害に備える」を開催した（(1)の2)で詳述）。さらに2025年度の防災推進国民大会への出展準備も進めた。

#### (5) 学協会等の交流の推進及び総合的な視点をもった防災研究の推進

##### 1) Web研究会の開催

会員学協会等の連携を深めることを目的に、各学協会等から順に関心テーマを決めていただき、防災連携委員・学識会員等を対象に、話題提供と質疑と討論を行うWeb研究会を定期的に開催している。今期は以下の5回を開催した。

第25回Web研究会「航空宇宙技術による防災・減災への貢献～能登半島地震における対応と今後の展望」

2024年7月9日 日本航空宇宙学会担当

第26回Web研究会「震災から復興へーこどもの声を軸にー」

2024年10月13日 こども環境学会担当

第27回Web研究会「古生物学が貢献する防災・環境変動予測」

2025年3月10日 日本古生物学会担当

第28回Web研究会「能登半島地震・豪雨からの農山漁村の復興」

2025年4月25日 農村計画学会担当

第29回Web研究会「頻発化・激化そして複合化する土砂災害に備えて」

2025年5月20日 日本応用地質学会担当

##### 2) 会員学協会間の連携活動の推進

会員学協会間における分野横断的連携活動として、以下の共同セッション等を開催した。

・日本災害医学会：防災学術連携体特別セッション、2025年3月7日「伊勢湾台風アゲ

イン ～名古屋は大丈夫か～」

- ・日本地球惑星科学連合：2025年大会での防災学術連携体との連携セッションとして以下を開催した。

- ・2025年5月24日 パブリックセッション（緊急セッション）

「2025年ミャンマー中部の地震と被害」

- ・2025年5月25日 パブリックセッション

「阪神・淡路大震災から30年－教訓と進展」

- ・2024年5月28日 ユニオンセッション

「連鎖複合災害に対峙する人間圏：能登半島豪雨災害の総合科学」

### 3) データベースの更新と活用

防災学術連携体の各学会の防災関連委員会のデータベースの管理を継続した。

## (6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

### 1) 報道機関への対応

シンポジウム開催時には、各種報道機関に開催について広報し、社会への発信につなげた。また報道機関からの問い合わせ等には積極的に対応した。

### 2) ニュースレターの発行

防災学術連携体の活動を広く情報展開するために、ニュースレターを定期的に発行した。

## 第1号議案-1

## 一般社団法人 防災学術連携体 貸借対照表

2025年6月30日 現在

(単位:円)

科目	2024年度
<b>【資産の部】</b>	
流動資産	1,306,651
現金預金	1,306,651
資産合計	1,306,651
<b>【負債の部】</b>	
負債合計	
<b>【正味財産の部】</b>	
正味財産	1,306,651
現金預金	1,306,651
正味財産合計	1,306,651
負債及び正味財産合計	1,306,651

## 一般社団法人 防災学術連携体 正味財産増減計算書

自2024年7月1日 至2025年6月30日

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
<b>1. 経常増減の部</b>			
<b>(1) 経常収益</b>			
会費収入	2,110,000	2,090,000	20,000
賛助会員会費収入	0	0	0
寄付金収入	0	0	0
受取利息	1,541	19	1,522
雑収益	51,700	64,778	△ 13,078
経常収益計	2,163,241	2,154,797	8,444
<b>(2) 経常費用</b>			
<b>事業費</b>	<b>780,745</b>	<b>712,322</b>	<b>68,423</b>
資料・ポスター編集費	350,000	300,000	50,000
印刷製本費	60,000	60,000	0
リモート会議システム利用料	58,245	35,310	22,935
ポータルサイト運営費	142,500	125,219	17,281
会場設営費	100,000	71,793	28,207
通信費運搬費	70,000	120,000	△ 50,000
雑費	0	0	0
<b>管理費</b>	<b>1,295,475</b>	<b>1,305,583</b>	<b>△ 10,108</b>
人件費	770,000	770,000	0
租税公課	80,000	70,000	10,000
旅費交通費	120,000	129,996	△ 9,996
通信運搬費	54,883	64,995	△ 10,112
事務局管理費	270,000	270,000	0
雑費	592	592	0
経常費用計	2,076,220	2,017,905	58,315
当期経常増減額	87,021	136,892	△ 49,871
当期一般正味財産増減額	87,021	136,892	
一般正味財産期首残高	1,219,630	1,082,738	
一般正味財産期末残高	1,306,651	1,219,630	87,021

一般社団法人 防災学術連携体 2024年度 収支計算書

(自2024年7月1日 ～至2025年6月30日)

1. 収入の部

科目	決算額	予算額	差異	備考
会費収入	2,110,000	2,110,000	0	
賛助会員会費収入	0	0	0	
寄付金収入	0	0	0	
受取利息	1,541	0	1,541	
雑収入	51,700	0	51,700	
当期収入計 A	2,163,241	2,110,000	53,241	
前年度繰越金	1,219,630	1,219,630	0	
収入合計 B	3,382,871	3,329,630	53,241	

2. 支出の部

科目	決算額	予算額	差異	備考
<b>事業費支出</b>				
資料・ポスター編集費	350,000	350,000	0	
印刷製本費	60,000	60,000	0	
リモート会議システム利用費	58,245	60,000	-1,755	zoom webinar
ポータルサイト運営費	142,500	120,000	22,500	
会場設営費	100,000	100,000	0	
通信運搬費	70,000	100,000	-30,000	
雑費	0	5,000	-5,000	
<b>管理費支出</b>				
人件費	770,000	770,000	0	
租税公課	80,000	80,000	0	法人都民税均等割 役員変更登記
旅費交通費	120,000	130,000	-10,000	
通信運搬費	54,883	60,000	-5,117	
事務局管理費	270,000	270,000	0	
雑費	592	5,000	-4,408	
当期支出合計 C	2,076,220	2,110,000	-33,780	
当期収支差額 A-C	87,021	0	87,021	
次期繰越収支差額 B-C	1,306,651	1,219,630	87,021	

# 監査報告書

一般社団法人 防災学術連携体

代表理事 和田 章 殿

2024 年度 2024 年 7 月 1 日から 2025 年 6 月 30 日までの防災学術連携体  
事業及び決算書に基づき関係書類、通帳、証拠書類を照合の結果、いずれも正確  
かつ適正であることを認めます。

2025 年 7 月 9 日

一般社団法人 防災学術連携体

監 事

加藤 俊行 

**第 2 号議案**  
**一般社団法人 防災学術連携体**  
**2025 年度 事業計画（案）**

自 2025 年 7 月 1 日  
至 2026 年 6 月 30 日

2025 年度の事業計画について、（一社）防災学術連携体定款第 4 条（事業）の各事項に沿って、その内容を示す。

(1) シンポジウムの開催等の防災に関する普及活動

1) 第 20 回防災学術連携シンポジウム

防災推進国民大会 2025（主催：内閣府、防災推進協議会、防災推進国民会議）に参加し、防災・減災に関連するシンポジウムを開催する（以下を予定）。

主催：日本学術会議 防災減災学術連携委員会・防災学術連携体（63 学協会）

日時：2025 年 9 月 6 日（土）、あるいは 9 月 7 日（日）

会場：Zoom ウェビナーによるオンライン開催＋YouTube 配信

テーマ：「複合災害に立ち向かう防災の知恵——新潟と能登の経験から」

2) 防災に関わる科学に関する情報発信

防災に関わる科学を広く一般に情報発信するために、実施したシンポジウムや Web 研究会等における講演動画の展開促進を継続する。さらに状況に応じ、機を見て防災に関する市民向けメッセージを発信する。

3) その他シンポジウム・報告会等の企画・開催

上記の活動に加え、防災に関わる適切なテーマを設定し、シンポジウム等を企画・開催する。また、当該年度内に他の大規模災害が発生した場合、別途緊急報告会等を企画、実施する。

(2) 各学会の取組み等を紹介する防災関連の学術総合ポータルサイトの運営

防災学術連携体ウェブサイトについては、防災関連の学術総合ポータルサイトとして利用されることを目的として、ホームページには参加学協会からのお知らせ、行事案内を集約、随時更新する。また、ホームページ上の各サイト「概要と参加学協会」、「近年の自然災害に関する情報」、「学術フォーラム、公開シンポジウム」、「Web 研究会」、「講演動画

（YouTube）」、「防災科学の基礎講座（YouTube）」、「声明・報告等」、「Activities Introduction」、「各学協会の防災関連委員会紹介」、「常時の交流・連携と災害時の緊急連絡網」、「学協会出版物・メディア掲載情報」、「国内外のお知らせ」、「国際協力・学協会連携」、「防災推進国民会議、日本学術会議（防災関連）」、「賛助会員」、「Link」、「防災連携委員のページ」において、より一層内容の充実を図る。

(3) 学協会等の連絡網の構築及び緊急事態における必要な活動

常時は、学協会間の連絡を緊密にするとともに、交流を促進するための手段として、災害などの緊急時には緊急連絡網として機能させることを目的として、防災連携委員、各学協会の事務局の名簿の更新を継続する。

またホームページに、災害情報に関する特設ページを設けて、災害発生時等には情報を収集して、会員間および一般に展開し情報の共有を図ることとする。

#### (4) 政府・自治体・関係機関等との交流の促進

2025年8月19日に、「第7回 防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」を、日本学術会議講堂とオンラインのハイブリッド方式にて開催する。テーマは「能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく広域地域災害への備え」。本連絡会は、防災に関する日本学術会議、府省庁との平常時の連絡の場として開催するもので、日本学術会議防災減災学術連携委員会、内閣府防災担当をはじめ府省庁の防災関係者が出席し、防災学術連携体会員の学協会・学識会員と情報・意見交換を行う。

内閣府防災担当が事務局を務める防災推進国民会議に委員として参画するとともに、防災推進国民大会 2025 に積極的に参加する。

#### (5) 学協会等の交流の推進及び総合的な視点をもった防災研究の推進

##### 1) Web 研究会の開催

会員学協会等の連携を深めることを目的に、各学協会等から順に関心テーマを決めていただき、防災連携委員・学識会員等を対象に、話題提供と質疑と討論を行う Web 研究会を定期的に開催する。

##### 2) 会員学協会間の連携活動の推進

会員学協会における他学協会との共同セッションの開催など、分野を越えた連携活動を積極的に推進する。

#### (6) 国際交流の推進及び世界の防災への貢献

防災学術連携体を構成する学協会、防災連携委員、学識会員などを通じて、海外の大災害に関する情報の共有と交流を進める、防災学術連携体の活動成果を海外に発信するなど、世界の防災への寄与を図る。

#### (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

防災学術連携体の活動の社会への広報に資するために、各種報道機関からの取材申し込みに対して積極的に対応する。またシンポジウムの開催時等には積極的に報道機関に情報を提供する。メディア掲載情報は、防災学術連携体ウェブサイトにとりまとめ、掲載する。

防災学術連携体の活動を広く情報展開するために、ニューズレターを発行する。また防災学術連携体のパンフレットは、最新の情報を反映したものに更新する。

## 第3号議案

一般社団法人 防災学術連携体 2025年度 収支予算 (案)

(自2025年7月1日 ～至2026年6月30日)

## 1. 収入の部

科目	今年度予算 ①	前年度予算額②	増減①-②	備考
会費収入	2,105,000	2,110,000	-5,000	
賛助会員会費収入	0	0	0	
寄付金収入	0	0	0	
受取利息	0	0	0	
雑収入	132,000	0	132,000	プラスメール分担費
当期収入合計 A	2,237,000	2,110,000	127,000	
前期繰越収支差額	1,306,651	1,219,630	87,021	
収入合計 B	3,543,651	3,329,630	214,021	
<b>2. 支出の部</b>				
科目	今年度予算 ①	前年度予算 ①	増減①-②	備考
<b>事業支出</b>				
資料・ポスター編集費	350,000	350,000	0	
印刷製本費	60,000	60,000	0	
リモート会議システム利用費	60,000	60,000	0	
ポータルサイト運営費	228,000	120,000	108,000	プラスメールアドレス増
会場設営費	130,000	100,000	30,000	
通信運搬費	100,000	100,000	0	
雑費	5,000	5,000	0	
<b>管理費支出</b>				
人件費	770,000	770,000	0	
租税公課	70,000	80,000	-10,000	法人都民税均等割
旅費交通費	130,000	130,000	0	
通信運搬費	60,000	60,000	0	
事務局管理費	270,000	270,000	0	
雑費	4,000	5,000	-1,000	
当期支出合計 C	2,237,000	2,110,000	127,000	
当期収支差額 A-C	0	0	0	
次期繰越収支差額 B-C	1,306,651	1,219,630	87,021	

(一社) 防災学術連携体  
2024～2025 年度  
幹事会名簿

資料 4

2024～2025 年度 幹事 計 21 名

代表幹事： 渦岡良介 (地盤工学会)

代表幹事： 米田雅子 (学識会員)

副代表幹事： 池内幸司 (土木学会)

副代表幹事： 目黒公郎 (学識会員)

幹事： 大友康裕 (日本災害医学会)

幹事： 小荒井衛 (日本第四紀学会)

幹事： 小松利光 (学識会員)

2025 年度新任 幹事： 笠間清伸 (地盤工学会)

幹事： 酒井明子 (日本災害看護学会)

幹事： 佐々木幾美 (日本看護系学会協議会)

幹事： 高橋幸弘 (学識会員)

幹事： 立花義裕 (日本気象学会)

幹事： 田村和夫 (学識会員)(事務局長)

幹事： 中村 尚 (学識会員)

幹事： 永野正行 (学識会員)(運営幹事)

幹事： 橋田俊彦 (学識会員)

幹事： 平田 直 (学識会員)

幹事： 松島信一 (日本地震学会)

幹事： 三輪準二 (土木学会)

幹事： 山本佳世子 (日本計画行政学会)(運営幹事)

幹事： 和田 章 (学識会員)(代表理事)

(飛田哲男氏(地盤工学会)が 2024 年度にて幹事退任)



日本学術会議 防災減災学術連携委員会(防災学術連携体との連携開催)  
第7回「防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」

資料5

防災学術連携体 正会員  
安全工学会  
横断型基幹科学技術研究団体連合  
環境システム計測制御学会  
空気調和・衛生工学会  
計測自動制御学会  
こども環境学会  
砂防学会  
水文・水資源学会  
石油学会  
ダム工学会  
地盤工学会  
地域安全学会  
地理情報システム学会  
土木学会  
日本安全教育学会  
日本応用地質学会  
日本海洋学会  
日本火災学会  
日本火山学会  
日本風工学会  
日本活断層学会  
日本看護系学会協議会  
日本機械学会  
日本危機管理防災学会  
日本気象学会  
日本救急医学会  
日本計画行政学会  
日本建築学会  
日本原子力学会  
日本航空宇宙学会  
日本公衆衛生学会  
日本古生物学会  
日本コンクリート工学会  
日本災害医学会  
日本災害看護学会  
日本災害情報学会  
日本災害復興学会  
日本自然災害学会  
日本社会学会  
日本森林学会  
日本地震学会  
日本地震工学会  
日本地すべり学会  
日本造園学会  
日本第四紀学会  
日本地域経済学会  
日本地学教育学会  
日本地球惑星科学連合  
日本地形学連合  
日本地質学会  
日本地図学会  
日本地理学会  
日本都市計画学会  
日本水環境学会  
日本リモートセンシング学会  
日本緑化工学会  
日本ロボット学会  
農業農村工学会  
農村計画学会  
廃棄物資源循環学会

# 能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく 広域地域災害への備え

日時 2025年8月19日(火) 14:00~17:30

場所 日本学術会議 講堂 + ZOOMミーティング併用

出席者 日本学術会議 防災減災学術連携委員会委員  
一社) 防災学術連携体63学協会(防災連携委員、学識会員、学会事務局)  
内閣府防災担当、防災に関わる府省庁と関係機関の担当者

出欠はこちらから <https://ws.formzu.net/fgen/S13506719/>

※上記申し込みフォームが使用できない場合は  
[office@janet-dr.com](mailto:office@janet-dr.com) 中川までご連絡ください



令和6年能登半島地震と令和6年9月能登半島豪雨で顕在化した少子高齢化が進む地域における災害対応の課題を整理し、今後の広域地域災害に対する具体的かつ最低限の備えを議論する。

## プログラム

- |  |  |                                  |
|--|--|----------------------------------|
| 司会   | 防災学術連携体幹事、神奈川大学客員教授<br>防災減災学術連携委員会幹事、東京理科大学教授  | 田村 和夫<br>永野 正行                   |
| 14:00 開会挨拶   | 日本学術会議副会長<br>挨拶 内閣府 防災監  | 三枝 信子<br>長橋 和久                   |
| 14:15 防災減災学術連携委員会の見解案の発表                               | ・「能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく広域地域災害への備え」<br>防災減災学術連携委員会委員長、東京科学大学名誉教授<br>防災減災学術連携委員会副委員長、東京大学教授<br>防災減災学術連携委員会委員、京都大学教授   | 竹内 徹<br>目黒 公郎<br>多々納 裕一          |
| 14:45 「能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく広域地域災害への備え」に関連する府省庁の取組み(各15分) | ・南海トラフ巨大地震の被害想定と実施すべき防災対策について<br>内閣府政策統括官(防災担当)付参事官(調査・企画担当)<br>・防災・減災に関する最近の取組みについて<br>国土交通省 水管理・国土保全局 防災課防災企画官<br>・福祉的支援の取組み強化<br>厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課課長補佐<br>・応急対策職員派遣制度の概要、令和6年能登半島地震を踏まえた対応等について<br>総務省 自治行政局 公務員部公務員課 応援派遣室長 | 森久保 司<br>磯部 良太<br>三森 雅之<br>穂積 直樹 |
| 15:45 「能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく広域地域災害への備え」に関連する学協会の発表(各15分)  | ・法制度や仕組みについて 地域安全学会、東京大学教授<br>・インフラ等の継続性確保について 土木学会、鳥取大学教授<br>・福祉的配慮、災害関連死問題について 日本災害看護学会、福井大学名誉教授<br>・広域支援体制について 日本災害復興学会、兵庫県立大学教授  | 加藤 孝明<br>小野 祐輔<br>酒井 明子<br>青田 良介 |
| 16:45 全体意見交換   | コーディネータ 防災学術連携体代表幹事、宇都宮大学理事  | 米田 雅子                            |
| 17:25 閉会挨拶   | 防災学術連携体代表幹事、京都大学教授   | 渦岡 良介                            |
| 17:30 終了後  | 出席者全員による集合写真撮影、交流会の開催  |                                  |

防災学術連携体 特別会員  
東京建築士会  
日本建築構造技術者協会  
日本免震構造協会

問合せ先：一般社団法人 防災学術連携体 〒113-0023 東京都文京区向丘1-5-4 ワイヒルズ2階  
電話：03-3830-0188 ファックス：03-5876-8463 mail：office@janet-dr.com



# 複合災害に立ち向かう防災の知恵 —新潟と能登の経験から

日時：令和7年（2025年）9月7日（日）10:30～12:00

場所：Zoom ウェビナーによるオンライン開催

主催：日本学術会議 防災減災学術連携委員会、一般社団法人 防災学術連携体

開催趣旨：新潟県およびその周辺地域で過去に発生した地震、豪雪、豪雨などの災害を振り返るとともに、2024年に発生した能登半島地震の教訓を共有します。これらの災害が複合的に発生するリスクを踏まえ、防災に関する最新の知見や情報を、関連する学術分野の専門家が発信します。そして、正しい自助・共助の行動へとつなげていくことを目的とします。本セッションでは、関連する分野の専門家をパネリストに迎え、一般の方にも分かりやすく防災につながるお話をいただく予定です。

参加費：無料

定員：1000名（ZOOM Webinar）

申込方法：次のフォームからお申し込みください。

<https://ws.formzu.net/fgen/S2178437/>

※当日の発表資料は、防災学術連携体のホームページに掲載いたします

<https://janet-dr.com/>



## プログラム：

司会：山本佳世子（日本学術会議連携会員、電気通信大学教授）  
永野正行（日本学術会議連携会員、東京理科大学教授）

10:30 開会挨拶：竹内 徹  
（日本学術会議防災減災学術連携委員会委員長、東京科学大学名誉教授）

10:32 趣旨説明：渦岡良介（防災学術連携体代表幹事、地盤工学会会長、京都大学教授）

10:34 複合災害の考え方とやるべき事：  
北田奈緒子（日本応用地質学会副会長、GRI 財団理事）

10:49 災害現象を知り、いまできる備えを考える：溝口敦子（名城大学教授）

11:04 地震後の生活ライフラインを守る：鎌田泰子（神戸大学教授）

11:19 住宅地における液状化被害の実態と対応：安田 進（東京電機大学名誉教授）

11:34 能登半島地震における復興アクション：  
木村一幸（国土交通省北陸地方整備局企画部事業調整官）

11:49 質疑応答

11:57 閉会挨拶：米田 雅子  
（防災学術連携体代表幹事、防災推進国民会議議員、宇都宮大学理事） 15

## 防災学術連携体 Web 研究会の記録

令和2年度

- ・第1回 Web 研究会 日本気象学会  
日 時：令和2年6月23日（火）・24日（水）16:30～17:45  
テーマ：「近年の異常気象と地球温暖化、今年の夏の備えも含めて」
- ・第2回 Web 研究会 日本災害医学会  
日 時：令和2年7月15日（水）10:40～11:10  
テーマ：「コロナ感染症対策と日本災害医学会の活動」
- ・第3回 Web 研究会 日本災害看護学会  
日 時：令和2年10月21日（水）16:30～17:45  
テーマ：「COVID-19 災害と共生への道」
- ・第4回 Web 研究会 防災学術連携体  
日 時：令和2年11月25日（水）16:30～18:00  
テーマ：「開発途上国と共に築く最先端の極端気象観測システム」
- ・第5回 Web 研究会 日本都市計画学会  
日 時：令和3年2月17日（水）16:00～18:00  
テーマ：「COVID-19 に対する都市封鎖と外出行動抑制をめぐって」
- ・第6回 Web 研究会 日本ロボット学会、国際レスキューシステム研究機構  
日 時：令和3年3月30日（火）16:00～18:20  
テーマ：「災害対応ロボットの現状と展望」

令和3年度

- ・第7回 Web 研究会 安全工学会、大阪ベイエリア NATECH 防災研究イニシアティブ  
日 時：令和3年5月27日（木）16:30～18:30  
テーマ：「NATECH : Natural Hazard Triggering Technological Disasters」
- ・第8回 Web 研究会 地理情報システム学会  
日 時：令和3年7月7日（水）16:00～18:00  
テーマ：「防災・減災支援における地理情報システムの可能性」
- ・第9回 Web 研究会 日本水環境学会  
日 時：令和3年9月28日（火）16:00～18:00  
テーマ：「下水疫学による COVID-19 災害下の感染流行状況把握」
- ・第10回 Web 研究会 日本気象学会・防災学術連携体  
日 時：令和3年9月30日（木）16:00～18:00  
テーマ：「令和3年8月の記録的な大雨の状況と要因」
- ・第11回 Web 研究会 廃棄物資源循環学会

日 時:令和3年12月6日(月) 16:00~17:30

テーマ:「災害廃棄物の“量”をまず知る・減らす ~廃棄物資源循環学会の取り組み~」

- ・第12回 Web 研究会 水文・水資源学会

日 時:令和4年3月28日(月) 16:30~18:00

テーマ:「防災に資する水循環観測・予測のフロンティア」

#### 令和4年度

- ・第13回 Web 研究会 特別版

日 時:令和4年4月15日(金) 16:30~18:15

テーマ:「2022年1月15日発生したトンガ海底火山噴火とそれに伴う津波について」

- ・第14回 Web 研究会 リモートセンシング学会

日 時:令和4年6月30日(木) 16:00~17:30

テーマ:「環境と災害を観測するための先端的衛星モニタリング技術」

- ・第15回 Web 研究会 特別版

日 時:令和4年7月6日(水) 16:30~18:00

テーマ:「気候変動下での水害対策について」

- ・第16回 Web 研究会 日本造園学会

日 時:2022年7月22日(金) 16:00~17:30

テーマ:「時空間スケールから考える復興・防災~造園学からのアプローチ」

- ・第17回 Web 研究会 特別版

日 時:2022年9月29日(木) 16:00~17:30

テーマ:「富と効率の追求、そして起こる大災害」

- ・第18回 Web 研究会 日本都市計画学会

日 時:2023年2月16日(水) 15:30~17:45

形式:日本都市計画学会会議室から ZOOM webinar によるオンライン配信

テーマ:「気候変動の時代における都市計画の役割~増大する水害リスクへの対処」

#### 令和5年

- ・第19回 Web 研究会 特別版

日 時:2023年9月11日(月) 18:30~19:30

テーマ:「2023夏の異常気象の分析について」

- ・第20回 Web 研究会 日本活断層学会

日 時:2023年9月29日(金) 16:00~18:00

テーマ:「災害軽減に向けた活断層研究の動向」

- ・第21回 Web 研究会 日本地すべり学会

日 時:2023年11月21日(火) 16:30~18:00

テーマ：「地すべりの分布の実態とその把握、災害の実例と緊急対応～日本地すべり学会の取り組み」

- ・第22回 Web 研究会 日本公衆衛生学会  
日時：令和6年1月12日（金）16:00～17:30  
テーマ：「災害対応の公衆衛生ーその実践と課題ー」
- ・第23回 Web 研究会 日本コンクリート工学会  
日時：令和6年2月14日（水）16:00～17:45  
テーマ：「地震によるコンクリート構造物への影響」

#### 令和6年度

- ・第24回 Web 研究会 日本火災学会  
日時：令和6年6月19日（水）16:00～18:00  
テーマ：「長期の温室効果ガス大幅排出削減に向けた技術イノベーションとしての防火技術による外部不経済削減」
- ・第25回 Web 研究会 日本航空宇宙学会  
日時：令和6年7月9日（火）16:00～18:00  
テーマ：「航空宇宙技術による防災・減災への貢献～能登半島地震における対応と今後の展望」
- ・第26回 Web 研究会 こども環境学会  
日時：10月13日（日）14:00～17:00  
テーマ：「震災から復興へーこどもの声を軸にー」
- ・第27回 Web 研究会 日本古生物学学会  
日時：3月10日（月）16:00～17:30  
テーマ：「古生物学が貢献する防災・環境変動予測」

#### 令和7年度

- ・第28回 Web 研究会 農村計画学会  
日時：4月25日（金）16:00～18:00  
テーマ：「能登半島地震・豪雨からの農山漁村の復興」
- ・第29回 Web 研究会 日本応用地質学会  
日時：5月20日（火）15:00～17:30  
テーマ：「頻発化・激化そして複合化する土砂災害に備えて」

2025年6月25日13時発表

## 市民へのメッセージ「2025年夏秋の気象災害に備えましょう」

一般社団法人 防災学術連携体 幹事会

### 1 地球環境の変化により、豪雨・猛暑などの異常気象が増えています

- ・ 地球温暖化の進行に伴い、日本をはじめ世界各地で異常気象が起りやすくなっています。日本では豪雨・台風などにより、さらに猛暑によっても、人々の生命や社会経済活動に深刻な影響が及んでいます。また、近年は日本近海の「海洋熱波」が記録的猛暑や豪雨、台風に与える影響も指摘されており、日本周辺の海面水温の状況にも注意が必要です。
- ・ 積乱雲によって狭い範囲に短時間で強い雨が降る「局地的大雨」、積乱雲が同じ場所で次々と発生し激しい雨が数時間にわたり降り続く「線状降水帯」、さらには前線の停滞などの影響で数日にわたって広域で大雨が続くなど、その発生頻度や雨量が増加傾向にあり、気象災害リスクが高まっています。
- ・ 本年も含め、近年は春から初夏にかけての早い時期から最高気温が30℃以上の真夏日が現れ、盛夏期には最高気温35℃以上の猛暑日が観測されることも多く、熱中症などのリスクも着実に高まっている状況です。昨年からは過去に例のない広域の危険な暑さを想定した「熱中症特別警戒アラート」の発表も始まりました。
- ・ 気象庁の最新の季節予報によれば、今夏は日本付近が暖かい空気に覆われやすいため、全国的に平年より気温が高い見通しです。既に6月中旬から太平洋高気圧の張り出しが強まって高温となっており、7月も全国的に顕著な高温傾向が予想されています。さらに、8～9月も全国的に高温傾向が続くそうです。今から熱中症への嚴重な警戒が必要です。一方、7月は太平洋高気圧の張り出しが強いため、東・西日本では少雨・多照傾向の見通しですが、沖縄や北日本では大雨に注意が必要です。8～9月は全国的に雨量がやや多くなる可能性があります。昨年に引き続き日本周辺は気温・海面水温ともに高く、梅雨・秋雨前線に向けて暖湿な気流が流れ込みやすいため、豪雨災害にしっかり備えることが必要です。また、夏から秋にかけては日本に接近する台風への備えも欠かせません。

### 2 熱中症を予防しましょう

- ・ 2024年6月～9月の統計では熱中症による死者数が観測史上最多の2033人となり、ついに2000人を超えています。
- ・ 体が暑さに慣れるまでに数週間程度かかる(暑熱順化)ため、本格的な夏になる前の梅雨の期間から暑さに備え、熱中症予防に取り組む必要があります。
- ・ 室内温度に気をつけましょう。エアコンはためらわずに使しましょう。
- ・ 湿度が高いと、汗が蒸発しにくく、体の冷却効果が薄れてしまいます。気温だけではなく、暑さ指数(WBGT)や湿度も意識した熱中症予防を心掛けましょう。

- ・ こまめな水分摂取を行いましょ。脱水症を防ぐためには、塩分を含む経口補水液の摂取が有効です。
- ・ 熱中症の初期症状として頭痛やめまいが起こることがあります。熱中症かな、と思ったら積極的に直射日光を避けた冷所にて休息をとり、水分をとりましょ。
- ・ 体温調節機能の低下している高齢者や、高血圧症、糖尿病、脳卒中後遺症などの持病がある人、認知症の人、一人暮らしの人、乳幼児などの「熱中症弱者(要配慮者)」を守る行動をとりましょ。また、持病を持っている方は、かかりつけ医に相談し、体調を整えておくことも重要です。乳幼児は生理的に脱水症になりやすいことや、自ら水分を取りにくいいため、特に注意が必要です。絶対に暑い車内や室内に置き去りにしてはなりません。
- ・ 危険な暑さが予想されるような場合は不要不急の外出を控えましょ。気象庁と環境省が公表する「暑さ指数(WBGT)」や「熱中症警戒アラート」、「熱中症特別警戒アラート」を報道やインターネットなどでチェックましょ。

### 3 豪雨・台風に伴う風水害・土砂災害に備えましょ

- ・ 豪雨や台風では、風水害、土砂災害の発生リスクが急に高まります。
- ・ 川の上流の山間部で大雨が降ると、今いる場所で雨が降っていなくても、洪水になることもあるので注意が必要です。
- ・ あなたのまちのハザードマップ(重ねるハザードマップ、わがまちハザードマップ)を参考にし、お住まいの場所などで、河川が氾濫した場合に何mくらいの深さで浸水してしまうのか、土砂災害が起こりやすい場所ではないかななどを自ら確認してください。
- ・ また、局地的大雨、線状降水帯による豪雨では、短時間に地下街、地下室、道路のアンダーパス、下水道、水路、側溝などに、激しい勢いで水が流れ込み、急に危険になることがありますので注意が必要です。
- ・ 浸水の恐れのある場所にお住まいの方は、浸水時の被害を抑えるために、玄関からの浸水や排水口からの逆流を抑制するための「水のう」の使い方を覚えておくとともに、室内にある電気器具や大切なものを高い場所に移動するなどの準備をしておきましょ。
- ・ ご家族と安全な避難や連絡の方法について日頃から相談しておきましょ。避難経路の周辺にある水路やマンホールの位置、土砂災害の危険性がある急な斜面など、避難時に支障があるところがないか、事前によく確認しておくことも重要です。
- ・ 豪雨や台風の到来は事前にある程度予想でき、雨雲の状況や土砂災害・浸水・洪水の危険度(キキクル、川の防災情報)など時々刻々の状況も公開されています。テレビ・ラジオ・気象庁ホームページなどで、最新の情報の収集に努めてください。
- ・ 雨の降り方、雷・突風、浸水など周りの状況に注意を払ってください。市町村から警戒レベル3の高齢者等避難が発令されたら、避難に時間のかかる高齢者の方などは危険な場所から安全な場所へ避難してください。警戒レベル4の避難指示が出されたら、対象地域の方は全員速やかに危険な場所から避難してください。また、夜間は周辺の状況が確認しづらくなるので、台風の接近や豪雨が予想される場合は、明るいうちに早めの避難も検討ましょ。

- ・ あなたのまわりに、自力で避難することが難しい方がおられたら、避難行動を支援するなど、近所の方々とお互いに助け合うことを日頃から確認しておくこと、地域・地区の防災訓練などへの参加も大切です。

#### 4 複合災害にも備えましょう

- ・ 豪雨・台風、猛暑、地震などが重なる複合災害では、それぞれが単独で発生する場合よりも被害が生じやすく、より深刻なものとなるおそれがあります。
- ・ 地震があった地域では、雨による土砂災害の危険性が高くなることがあります。
- ・ 日本中いたる所で豪雨や台風による災害が発生しています。猛暑も全国各地で発生し、昼夜を問わず、対策が必要になっています。豪雨・台風による災害と猛暑が重なると、熱中症を引き起こすリスクが高まります。避難所などでは体調を崩すリスクが高まるため、注意が必要です。
- ・ 広域の同時多発災害や半島・離島などでの災害の場合は、救助や支援の手が届くのが遅れる場合があることを踏まえ、備蓄を含めた備えと対応が必要です。
- ・ 自分たちの安全は自分たちで守ること、そのために備えをすることが第一の基本です。豪雨や猛暑などの顕著な天候がいつでも発生しうることを知り、日頃から気象情報に注意を払いましょう。また、家族、地域のコミュニティや自主防災組織などで、互いに助け合うことができるよう、この機会に改めて災害への備えと行動について確認をしましょう。

[一般社団法人 防災学術連携体 幹事会]

代表幹事： 渦岡良介、米田雅子

副代表幹事： 池内幸司、目黒公郎

幹事： 大友康裕、小荒井衛、小松利光、酒井明子、佐々木幾美、高橋幸弘、立花義裕、  
田村和夫、飛田哲男、中村 尚、永野正行、橋田俊彦、平田 直、松島信一、  
三輪準二、山本佳世子、和田 章

協力： 横堀将司(日本救急医学会)

[防災学術連携体とは]

防災減災・災害復興に関わる63学協会のネットワークです。

防災に関わる多分野の学協会が、日本学術会議を要として集まり、学協会の連携を進め、緊急事態時に学協会間の緊密な連絡がとれるよう備えています。

安全工学会	日本看護系学会協議会	日本森林学会
横断型基幹科学技術研究団体連合	日本機械学会	日本地震学会
環境システム計測制御学会	日本危機管理防災学会	日本地震工学会
空気調和・衛生工学会	日本気象学会	日本地すべり学会
計測自動制御学会	日本救急医学会	日本造園学会
こども環境学会	日本計画行政学会	日本第四紀学会
砂防学会	日本建築学会	日本地域経済学会
水文・水資源学会	日本原子力学会	日本地学教育学会
石油学会	日本航空宇宙学会	日本地球惑星科学連合
ダム工学会	 <b>日本学術会議</b> <small>SCIENCE COUNCIL OF JAPAN</small>	日本地形学連合
地盤工学会		日本地質学会
地域安全学会	日本公衆衛生学会	日本地図学会
地理情報システム学会	日本古生物学会	日本地理学会
土木学会	日本コンクリート工学会	日本都市計画学会
日本安全教育学会	日本災害医学会	日本水環境学会
日本応用地質学会	日本災害看護学会	日本リモートセンシング学会
日本海洋学会	日本災害情報学会	日本緑化工学会
日本火災学会	日本災害復興学会	日本ロボット学会
日本火山学会	日本自然災害学会	農業農村工学会
日本風工学会	日本社会学会	農村計画学会
日本活断層学会		廃棄物資源循環学会
東京建築士会	日本建築構造技術者協会	日本免震構造協会

[一般社団法人 防災学術連携体 事務局]

〒113-0023 東京都文京区向丘 1-5-4 ワイヒルズ 2 階

TEL:03-3830-0188 FAX:03-5876-8463

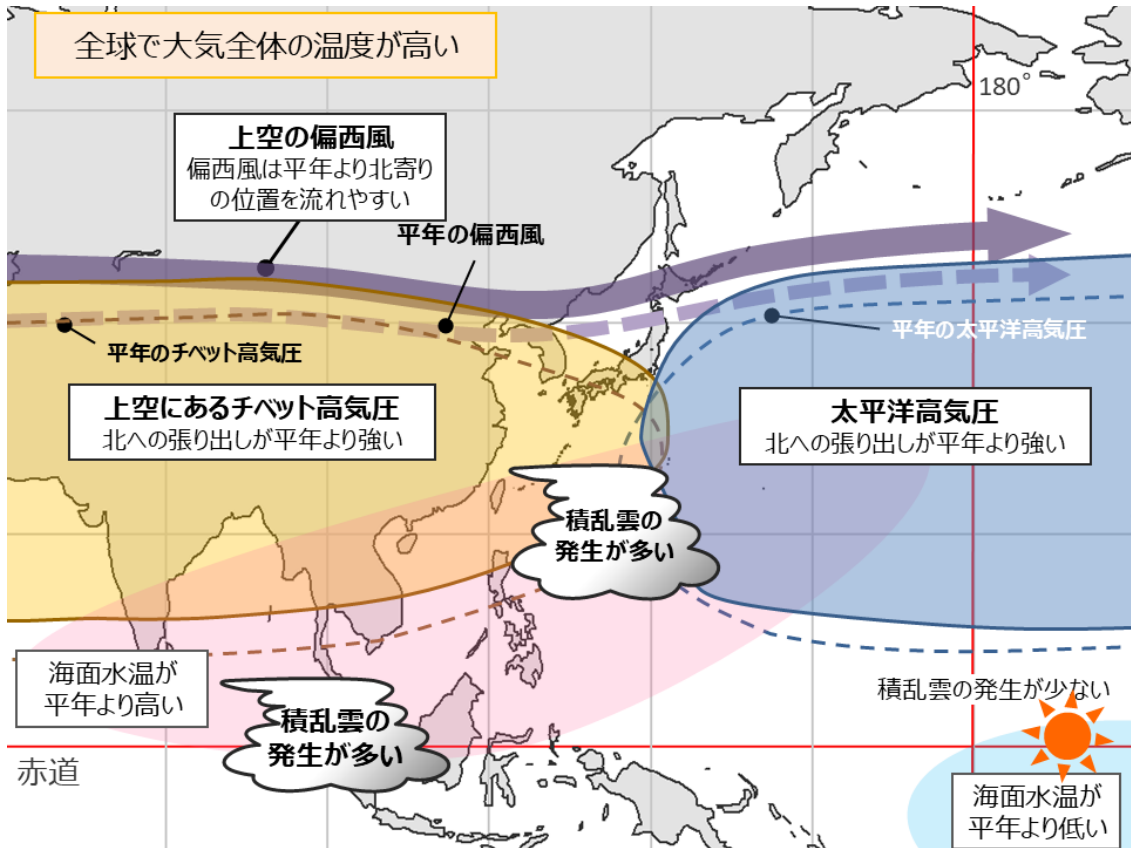
中川寛子 office@janet-dr.com、小野口弘美 info@janet-dr.com

## [参考情報]

気象庁 ホームページより

向こう3か月の天候の見通し 全国（7月～9月）、予想される海洋と大気の特徴

<https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/kaisetsu/?region=010000&term=P3M>



- ・ 地球温暖化の影響等により、全球で大気全体の温度が高いくでしょう。
- ・ 海面水温は、太平洋赤道域の中部では低い一方、インド洋東部からフィリピンの東方海上にかけて高いでしょう。
- ・ このため、積乱雲の発生は、インド洋東部からフィリピンの東方海上にかけて多く、太平洋中部の熱帯域では少ないでしょう。
- ・ これらの影響により、上空の偏西風は、平年より北寄りの位置を流れ、チベット高気圧は、北への張り出しが平年より強いでしょう。また、太平洋高気圧は、北への張り出しが平年より強いでしょう。
- ・ このため、全国的に暖かい空気に覆われやすいでしょう。また、沖縄・奄美では湿った空気などの影響を受ける時期がある見込みです。

報道関係各位

2025年6月13日 プレスリリース

防災学術連携体幹事会は6月25日(水)に  
**市民へのメッセージ「2025年夏秋の気象災害に備えましょう」**を発表します。

防災学術連携体幹事会は、地球環境の変化により顕著な天候が現れやすくなっているため、今後、夏から秋にかけての気象災害への備えを呼びかけるために、市民向けメッセージを発表し、4名の専門家が今年の状況を説明します。質疑応答の時間も用意しております。是非、ご取材ください。

参加申込みは不要です。当日、ZOOMに直接アクセスして下さい。アクセス時には、会社名と名前を示して下さい。

---

#### 防災学術連携体 市民向けメッセージ 記者説明会

【日時】令和7年6月25日(水) 13:00~14:15【ZOOM接続】

#### ZOOMに参加するためのリンク

<https://us02web.zoom.us/j/84872665735?pwd=zRM0EIJkThFcYjxXxkj2XMh7L7QFof.1>

ミーティング ID: 848 7266 5735

パスコード: 250121

#### 【説明者】 防災学術連携体

中村 尚 東京大学教授、防災学術連携体幹事 (日本気象学会)

池内幸司 河川情報センター理事長、防災学術連携体副代表幹事 (土木学会会長)

横堀将司 日本医科大学教授、高度救命救急センター長 (日本救急医学会)

米田雅子 宇都宮大学理事、防災学術連携体代表幹事

---

#### (防災学術連携体とは)

防災減災・災害復興に関わる63学協会のネットワークです。防災に関わる多分野の学協会が、日本学術会議を要として集まり、学協会の連携を進め、緊急事態時に学協会間の緊密な連絡がとれるよう備えています。 <https://janet-dr.com/>

---

#### (一般社団法人 防災学術連携体 事務局)

〒113-0023 東京都文京区向丘1-5-4 ワイヒルズ2階

TEL : 03-3830-0188 FAX : 03-5876-8463

中川寛子 [office@janet-dr.com](mailto:office@janet-dr.com)、小野口弘美 [info@janet-dr.com](mailto:info@janet-dr.com)



各位

防災学術連携体の行事等にご参加頂いた皆様にお送りしております。

### 防災学術連携体 幹事会

#### 市民へのメッセージ「2025 年夏秋の気象災害に備えましょう」をプレス発表します

(日時) 6月25日(水) 13時～14時15分

(主催) 一般社団法人 防災学術連携体 幹事会

(視聴) youtube でライブ配信→ <https://youtu.be/CVd7wPh9dt0>

防災学術連携体幹事会は、地球環境の変化により顕著な天候が現れやすくなっているため、今後、夏から秋にかけての気象災害への備えを呼びかけるために、市民向けメッセージを発表し、4名の専門家が今年の状況を解説します。是非、ご視聴ください。

\* 報道関係者の方は、ZOOM に接続し、質疑にご参加いただけます。

取材希望の方は、中川 [office@janet-dr.com](mailto:office@janet-dr.com) までご連絡下さい。

#### 【説明者】 防災学術連携体

中村 尚 東京大学教授、防災学術連携体幹事 (日本気象学会)

池内幸司 河川情報センター理事長、防災学術連携体副代表幹事 (土木学会会長)

横堀将司 日本医科大学教授、高度救命救急センター長 (日本救急医学会)

米田雅子 宇都宮大学理事、防災学術連携体代表幹事

---

#### (防災学術連携体とは)

防災減災・災害復興に関わる63学協会のネットワークです。防災に関わる多分野の学協会が、日本学術会議を要として集まり、学協会の連携を進め、緊急事態時に学協会間の緊密な連絡がとれるよう備えています。 <https://janet-dr.com/>

---

#### (一般社団法人 防災学術連携体 事務局)

〒113-0023 東京都文京区向丘 1-5-4 ワイヒルズ 2階

TEL : 03-3830-0188 FAX : 03-5876-8463

中川寛子 [office@janet-dr.com](mailto:office@janet-dr.com) 、小野口弘美 [info@janet-dr.com](mailto:info@janet-dr.com)